



外務省 ODA 広報キャラクター ODAマン

紛争から復興を経て 成長に舵を切った西バルカン地域。 日本との関係が強まっています

今月のテーマ

西バルカン地域

答えてくれた人



外務省 国際協力局 国別開発協力第三課

気賀沢 千代 (きがさわちよ)さん(右) 民間企業でのITコンサルタントとしての勤務を経て、2017年8月から現職。

平山 宗幸 (ひらやまむねゆき)さん(左) 2002年農林水産省入省。農林水産省技術会議事務局、環境省自然環境局などを経て、18年4月から現職。

Q1 西バルカン地域に 共通することは?

A1 各国がEU加盟を目標に、 経済成長に力を注いでいます。

西バルカン地域とは、アルバニア、北マケドニア、コンボ、セルビア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、モンテネグロの6か国です。アルバニアを除き旧ユーゴ紛争後に独立した国々で、紛争後の復興期を経て、今は成長に向けて歩みを進めています。各国ごとに経済水準や抱える課題は異なりますが、共通しているのは欧州連合(EU)への加盟を目標としている点です。

欧州の中でもこの地域は発展が遅れていて、EU加盟は西バルカン諸国の切実な願いです。しかし加盟には、法の支配が確保されていること、民主主義や基本的人権が守られていること、市場経済が機能し、EU内での競争力に耐えられることなどの条件があり、国によっては高いハードルです。EU加盟の実現とともに、この地域のさらなる安定と経済的な発展が期待されます。

Q2 日本の外交方針は?

A2 「西バルカン協カイニシアティブ」のもと、 地域全体への協力を進めています。

宗教や文化、言語の異なる多くの民族が暮らす西バルカン地域が安定し、平和になることは、欧州全体の安定にもつながり、日本にとっても企業進出などの可能性が増えます。2018年1月、安倍晋三総理大臣がセルビアを訪れた際には、二国間関係の進展を確認すると同時に、「西バルカン協カイニシアティブ」のもと、日本が同地域全体への協力をさらに推進することを発表しました。

化が期待されます。これまで日本は、セルビアやボスニア・ヘルツェゴビナで運行されている黄色いバス(9ページ参照)のように、目に見える形で貢献し、どの国、どの民族に対しても公平な立場で支援を展開してきました。そんな日本に西バルカン諸国の人々は親近感を抱き、厚い信頼を寄せてきています。その期待に応えるためにも、引き続き各国のニーズに合った支援を行っていきます。

「西バルカン協カイニシアティブ」は、EU加盟を目指す西バルカン地域各国の経済・社会改革を支援し、地域内での協力関係促進を目的としています。具体的には、外務省に西バルカン担当大使を新設し、各国との対話を強化するほか、防災・中小企業振興などの分野における日本の知見の共有、新しい協力案件の発掘・形成のためのJICA調査団の派遣などの取り組みを行っています。

20年にはコンボの首都プリシュティナに兼勤駐在官事務所の設置が予定されるなど、西バルカン諸国とのますますの関係強



日・セルビア首脳会談で握手するアレクサンダル・ブチッチ大統領(右)と安倍総理大臣(写真提供:内閣広報室)。

Q3 最近の地域間協力はありますか?

A3 防災セミナーや青年招へい、ビジネスセミナーなどを行いました。

西バルカン諸国が国境を越えて取り組むべき課題があります。それは防災や民族融和です。

今年2月には、西バルカン地域への支援に意欲的なブルガリアと協力し、同地域の共通課題である洪水への対応をテーマに防災セミナーを開催しました。日本やブルガリア、西バルカン諸国、さらに国際機関などから防災関係者約60人がブルガリアに集まり、防災政策の枠組みや法制度、洪水予防のインフラ整備、防災教育などについて活発な議論が行われ、防災関係者のネットワーク構築にもつながりました。

一方、民族融和につながるのが青年招へいです。昨年は外務省の「MIRAIプロ

グラム」*で各国から計18名の青年が日本を訪れ、東京や広島、京都を視察したほか、大学を訪問して日本人学生とも交流しました。「自分たちの国を客観的に見ることができてよかった」と感想を述べる参加者もいて、日本での経験を帰国後に生かすことが期待されます。

経済分野では、日本貿易振興機構(JETRO)などと協力し、昨年、日本で西バルカンビジネスセミナーを開催しました。日本外務省が招いた西バルカン諸国の商工会議所の代表が、セミナーに参加した日本企業に向けて自国の投資誘致の取り組みや投資先としての魅力をアピールしました。競争力の高い豊富な労働力を背景に、西

バルカン諸国は製造業の分野をはじめ新たな投資先としての魅力が高まっています。こうした取り組みを続けることによって西バルカン地域内の協力関係を進めるとともに、日本と西バルカン地域の交流を促進していきます。

*2015年から始まった招へいプログラム。欧州および中央アジア・コーカサス地域の大学・大学院生や若手社会人に、日本の政治、経済、社会、歴史、文化および外交政策について理解を深める機会を提供するとともに、同世代の日本人学生や若手実務者との交流を行い、相互理解を促進する事業。



「MIRAIプログラム」で日本を訪れた西バルカン諸国の青年が外務省を訪問。



西バルカン諸国の商工会議所の代表らが参加したビジネスセミナー。



ブルガリア 首都: ソフィア

在外公館レポート from Bulgaria ブルガリアと連携し、民間ビジネス育成を支援

西バルカン地域に隣接し、「バルカンの母」とも呼ばれるブルガリア。西バルカン諸国と良好な関係を維持しており、各国のEU加盟支援を外交上の最優先課題の一つに掲げています。現在そのブルガリアと日本が協力し、EU加盟を目指してさまざまな社会・経済改革を推進している北マケドニアの中小企業育成支援に取り組んでおり、三角協力を通じた効果的なケースとして注目されています。

ベルリンの壁崩壊後、市場経済化の波は西バルカン諸国にも押し寄せました。この地域では長年、国営企業や公社が経済活動の中心となっていたため民間企業

経営の歴史が浅く、同地域の持続可能な安定と発展の観点から、中小企業育成支援は重要な柱の一つとなっています。

ブルガリアは、EU加盟前にJICAの技術協力により、国立の世界経済大学に経営人材育成のためのビジネスコースを立ち上げた経緯があります。その世界経済大学がビジネスコースを立ち上げた際の人材と知見を活用し、ブルガリア政府のODA予算とJICAとの協力により、北マケドニアのスコピエ大学に中小企業経営者育成のビジネスコースを立ち上げるプロジェクトを実現しました。長崎大学からも講師が参加し、「日本式経営」や「品質管理」とい

たテーマの講座で、北マケドニアの次世代を担う熱心な若手経営者たちが耳を傾けています。

(在ブルガリア日本国大使館 一等書記官 山岸あおい)



日本人講師の講義に熱心に耳を傾ける北マケドニアの若手企業経営者たち。



日本との関係強化が期待されます

©DLE